

「樹齢七千年の杉」の授業について

1 はじめに

表題の道徳教材(中学校2年生)における授業展開について意見を求められました。私の考えを紹介します。なお、2の(1)～(4)については、指導書の通りです。

2 授業展開について

- (1) 教材名 樹齢七千年の杉
- (2) 主題名 自然の偉大さ
- (3) 内容項目 D-(21) 感動、畏敬の念
- (4) ねらい 自然の美しさや神秘さ、偉大さを感じ、人間の力を遙かに超えたものに対する畏敬の念を深め、豊かな心を育てる。

※ 学習指導要領における内容項目 自然愛・畏敬の念
自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。

(5) 考 察

七千年という長さ、縄文杉の大きさ

七千年という長さや縄文杉の大きさを文字だけでは感じ取るのは難しい。まずは、七千年という長さ、縄文杉の大きさがイメージできるようにしたい。

<縄文杉>

樹齢七千年 七千年前に芽をだした

七千年前 日本は縄文時代にあたる。

縄文時代 紀元前1万4000年～紀元前4世紀

約6700年前 稲作が中国から伝わる。

縄文人、磨製石器、竪穴式住所、高床式倉庫

狩猟生活、焼畑農耕

青銅器・鉄器はまだない。文字(漢字)もまだない。

樹高 25.3m 7階建てビルと同じ高さ。3階建て校舎の屋上は地上から10mである。

胸高周囲 16.4m 10人の大人が手をつないで輪を作った大きさ

大人が両手を広げた長さは150cm～160cmである。

3 指導過程

(1) 導入 5分

○発問 「これまで山や海などで美しいな、大きいなと心を打たれた経験はありませんか。」

(2) 展開前半 25分 【資料から道徳的価値を考える】

- ①縄文杉の説明 樹齢七千年、歴史年表から7千年前の様子を確認する。
樹高、胸高周囲から縄文杉の大きさを実感する。

②資料の範読

発問① 「七千年生き続けていることについて、あなたは何を感じますか。どう思いますか。」

発問② p76 「死の瞬間まで、命の火を、ほうほうと燃やす。美しい生き方」とはどんな生き方でしょうか。

(3) 展開後半 15分 【生活の振り返りから道徳的価値を考える】

発問③ 自然の美しさや偉大さに接したとき、どんな気持ちになるか考えてみましょう。

発問③の代わりに

教師が自然の美しさ、雄大さに感動したり、神秘さを感じたりした体験談を話す。

私が経験したこと

- ・彦根城から景色を見たとき、琵琶湖が目に入った。こんなところに海はないはず。そうか、琵琶湖だ。琵琶湖の大きさに感動した。初めて海を見た人もこんなふうを感じるのだろうと思った。
- ・初めてスキーにいったとき、一面に広がる雪景色。積もっている雪の深さ。軒下に伸びているつらの長さ。すごいと感じた。水道管が凍りつかないように、水道の水を少しではあるが出しっぱなしにしてあったり、宿泊場所の中では一切寒いとすることがなかったりしたことから、ここで暮らすことのたいへんさと、そのための知恵を感じ取った。
後に知ったことであるが、道路の端に立ててある紅白のポール、交差点の信号機(赤黄緑)が縦に並んでいることにも感心した。
北海道に行ったとき、団地の家の屋根が比較的平らで、屋根に上がるための梯子がはじめから設置されていた。
- ・初めて行った沖縄。海の色がなんとも綺麗で感動した。特に、晴れた日の海の色はとてもステキだった。曇った日には、その色はあまり見られないが、曇った日に取った写真に映った海の色は見た目とは違って、晴れた日ほどではないが、晴れた日に見える海の色に近かったことにも驚いた。

(4) 終末 5分 【授業の振り返りをする】

○授業の振り返りを行い、道徳ノートに○をつける。

○振り返りの4つの項目から一つを選び、具体的にどんなことかを書く。(一行程度でよい)

4 おわりに

本市の生徒の場合、自然と関わることはかなり少なく、自然の美しさや偉大さを感じる経験などは更に減ると思われる。少しでもそういった経験が思い出されるようにするためには、まずは指導する教師が自分の経験を話すことが大切だと思う。畏敬の念の指導は難しい。